http://www.edu.pref.kagoshima.jp/　（通巻第１９５４号）

指導資料　特別支援教育 第193号

鹿児島県総合教育センター
平成30年４月発行

対象校種	幼稚園 小学校 中学校 義務教育学校 特別支援学校

自閉症スペクトラムのある幼児児童生徒の心の理論の獲得につながる指導

自閉症スペクトラムのある幼児児童生徒は，定型発達児に比べ，心の理論の獲得が遅かったり，獲得できないままであったりすることがある。本指導資料では，「心の理論とは何か」を説明し，子供の心の理論獲得につながる指導の工夫例を紹介する。

１　はじめに

図１は，「赤ずきん」の中の有名な１シーンであるが，どうして子供たちはこのシーンにドキドキしてしまうのだろうか。それは，「まだ，赤ずきんは，寝ているのはおばあちゃんで，まさかオオカミとは思ってもいない。」と，赤ずきんの心の状態を推測することができるからである。

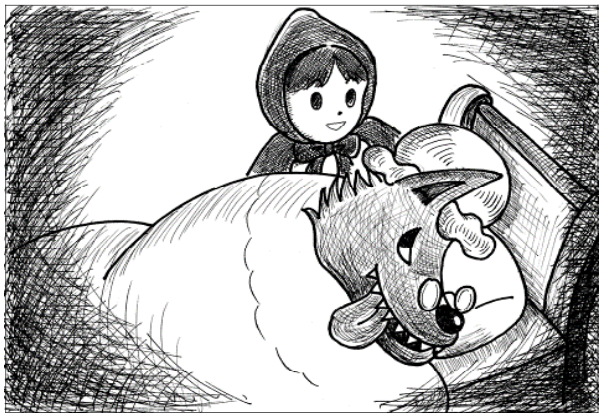

図１　「赤ずきん」の１シーン

幼児児童生徒（以後「子供」とする）の中に，友達と上手に関わることができなかったり，社会的な場面で上手に振る舞うことができなかったりする子がいる。例えば，悪気はないが，友達が嫌がることを，つい言ってしまい，自分の立場を悪くしてしまう。それは，自分の発言が友達にどう受け取られるのかという，友達の心の状態を推測することができないからである。こうした子供たちの抱える困難さの背景には，心の理論の獲得の有無が大きく影響していると言われる（藤野，2005）。

自閉症スペクトラム（以下，「自閉症」という。）児の中には，このような困難さを抱えている子がいる。

２　心の理論

私たちは，他者と関わっているとき，「きっとこの人はこんなことを考えているだろう。」と自然と相手の心の状態を推論している（図２）。こうした，「相手の心が読める」のは，私たちが心の理論を獲得しているからに他ならない。心の理論とは，相手の表情や行動から，相手の心について推測する力のことをいう（岡本他，2004）。

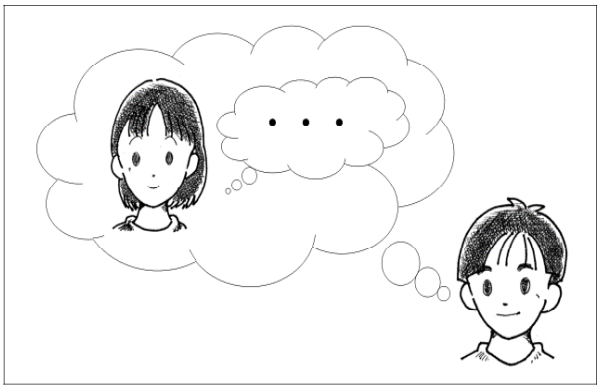

図２　心の理論のイメージ図

３　心の理論の獲得時期

子供は，心の理論をいつ頃獲得するのだろうか。獲得しているかどうかを判断する指標に誤信念課題がある。そのうち，「サリーとアンの課題」（**図３**）が有名であるので紹介する。

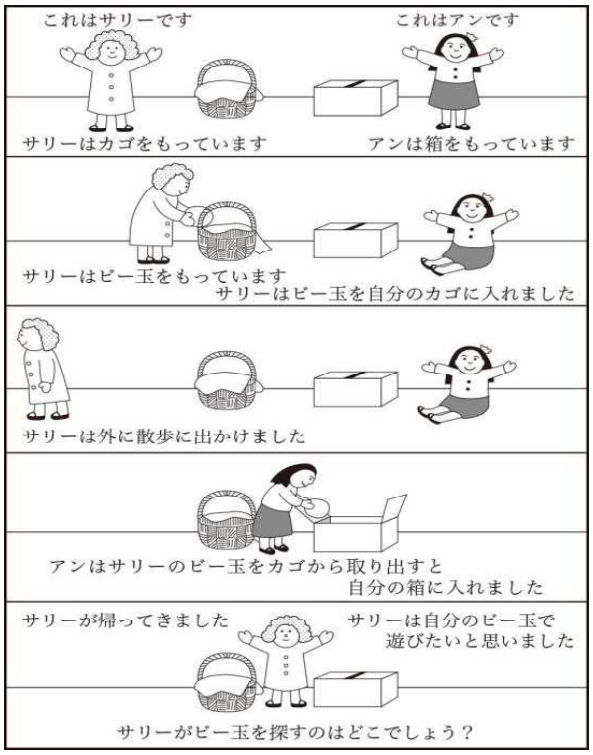

図３　「サリーとアンの課題」

（岩波，2017から引用）

「サリーとアンの課題」では，以下の質問を子供に行う。

> サリーはビー玉をカゴの中に入れ，部屋を出て行きました。サリーが部屋にいない間にアンはビー玉をカゴから箱に移し入れました。サリーは部屋に戻ってきました。サリーがビー玉を探すのはどこでしょう？

この質問に対して，心の理論を獲得している子供は「カゴ」と答えるが，獲得していない子供は「箱」と答える。カゴと答えた子供に，「どうして？」と尋ねると，「だって，サリーは，アンが勝手にビー玉を箱に移したことを知らないから。」と答えるだろう。このように，誤信念課題を通して，その子供が「相手の心の状態を推測する力があるかどうか」を確認することができる。

誤信念課題の正答時期から，心の理論の獲得時期を推測することができる。定型発達児の心の理論は，幼児期である４歳～５歳頃に獲得される。しかし，言語を獲得している自閉症児の獲得時期は９歳頃と言われており，定型発達児に比べると遅いことが明らかとなっている。

周りの友達に比べ，心の理論の獲得が遅い子供は，友達とのトラブルが多くなったり，絵本や教科書の登場人物の心情の読み取りが難しかったりすることが予想される。

４　二次の心の理論

私たちは普段から，「Ａさんは，○○と考えているな。」と，他者の心の状態を推測しているが，さらに，「Ａさんは，『Ｂさんが○○と考えている。』と考えているな。」といった複雑な心の状態を頻繁に読み取りながら生活している（**図４**）。

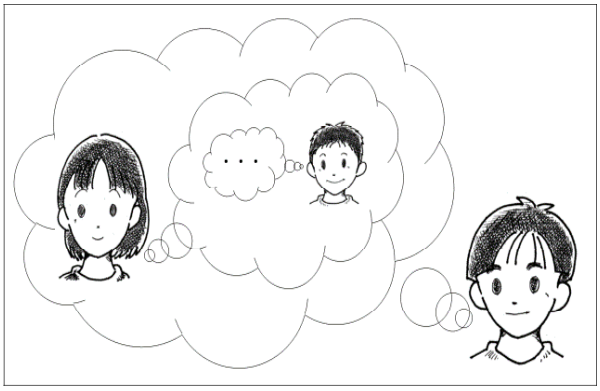

図４　二次の心の理論のイメージ図

両者を区別するため，前者を一次の心の理論，後者を二次の心の理論としている（ただし，一般的に心の理論というときは，一次の心の理論のことを表すことが多い）。定型発達児の二次の心の理論は，学童期である６～９歳頃に獲得される。学童期において，二次の心の理論獲得は重要であり，複雑な他者の心の状態を推測する力こそが，社会的やり取りを育むものとなる。ただし，

自閉症児をはじめ，障害のある子供の中には，一次の獲得の遅れに合わせ，更に二次の獲得も遅れる子供もいる。このことが，一層対人関係の難しさや学習の難しさを生み出すこととなる。

５　自閉症児の心の理論

最近の研究で，定型発達児と自閉症児の心の理論は，質的に違いがあることが分かってきている。例えば，「サリーとアンの課題」において，定型発達児には，正答するまでには，以下の三つのレベルが存在する。

① 「箱」と誤答するレベル
② 「カゴ」と正答できるが，理由付けはできないレベル
③ 「カゴ」と正答し，理由付けもできるレベル

そして，発達的に①→②→③と移行していく。一方，自閉症児は，②レベルを示さず，①のレベルから直接的に③のレベルへ発達するという，定型発達児とは異なる発達を示すことが明らかとなっている（別府，2016）。②と③のレベルは，以下のように捉えることができる。

【②のレベル】
理由は言えないが何となく相手の心が理解できるレベル
【③のレベル】
「○だから，△と考える」という命題による理由付けができるレベル

自閉症児は，②のレベルを獲得しないまま③のレベルを形成していく。例えば，自閉症児の中に，大人だけでなく，友達にも敬語を使う子供がいるが，それは，「他人は敬語を使うとうれしい。」という③のレベルに発達したからである。しかし，定型発達児は，友達に敬語を使ったとときに，相手の雰囲気を察し，「他人であっても，友達に敬語を使うことはおかしいことだ。」ということに気付き，②のレベルが働き，友達には敬語は使わないことができる。

このことからも，自閉症児が誤信念課題に正答したとはいえ，定型発達児とは質が異なるため，学校生活を送るには難しさが伴うことは，十分に理解可能である。そのため教師には，子供一人一人の心の発達状態を見極める必要がある。

６　心の理論の指導に当たって

自閉症児にとって，心の理論は，幼児期から青年期にかけて重要な発達課題である。教師には，適切な指導を行うためにも，心の理論の理解が求められる。

例えば，子供同士のけんかの指導に当たるときに，「Ａさん，泣いているよ。謝りなさい。」と言ったところで，指導を受けた子供は，「無理矢理，先生に謝るように言われた。」としか感じないだろう。

国語の教科書の登場人物の心情の読み取りができない子供がいても，「しっかり授業を聞いていないからだ。」，「本人の努力不足だ。」と思ってしまったことはないだろうか。

また，先述の自閉症児の心の理論の質の違いを理解していないと，「変わった子」，「自分勝手な子」と誤解したまま接しかねない。その誤解は，そのままクラスの友達にも波及し，学級経営にまで影響を与えていく。そうならないためにも，子供一人一人の特性を踏まえた上で，適切な指導が望まれる。

７　自閉症児の心をどう育てるか

心の理論の獲得のために，子安（2016）は，「物語」を通して多様な人間関係の在

り方を教えることの有効性を説いている。ここでいう「物語」とは，お話や絵本，小説，ドラマ，映画などである。

幼稚園などで毎日行われている絵本の読み聞かせは，読み手（教師）と聞き手（子供）との相互的な活動である。その中で繰り出されるやり取りが重要であり，読み手の言葉をきっかけに，相互的なやり取りが行われる。

絵本「赤ずきん」は，幼児期に一次の心の理論を獲得しているからこそ味わえる面白さがある。例えば，**図１**の場面の読み聞かせで，読み手の「なんだか，ドキドキするね。」，「この後，赤ずきんちゃん，どうなるのかな。」の言葉が，子供に赤ずきんの心の状態を推論させるきっかけとなり，ドキドキ感を味わわせることができる。

８　様々な場面での指導

子供の心の理論の獲得には，物語に限らず，幼稚園・学校生活の様々な場面の中で，指導を行うことが有効である。

先述の子供同士のけんかの指導に当たるときに，「Ａさん，泣いているよ。謝りなさい。」ではなく，「Ａさんは，どんな気持ちだったと思う？」といった相手の心の状態を推測させる指導を繰り返し行うことで，気付きを生むことができる。

また，言葉だけではなく，文字化（視覚化）することも有効である。例えば，そのときの場面に登場する人物を簡単な線画で描き，吹き出しの中に，子供と一緒に話し言葉や心の状態を書いていくことにより，子供は会話の意味や相手の気持ちを改めて整理することができる（**図５**）。

こうした指導の積み重ねが，「もし，自分が○○したら，Ａさんは嫌がるかもしれない。」，「次，○○するときには，Ａさんに，『○○』と言うようにしよう。」といった思考を育むようになる。

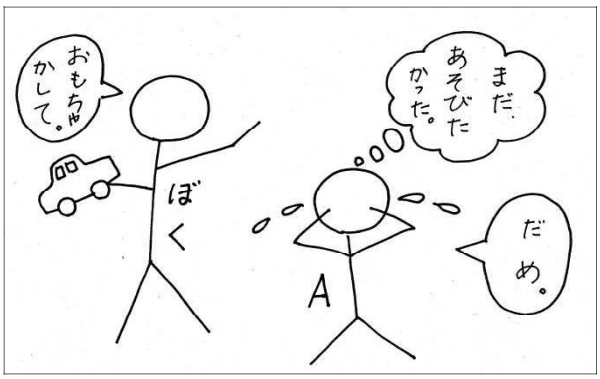

図５　文字化（視覚化）の例

意図的な集団での遊びやグループディスカッションの設定も有効である。その中で，子供は，「私は，相手の気持ちを知ろうとしていなかった。」と感じることができ，「私は，相手の気持ちに敏感でなかった。」と自分自身を振り返ったり，「私は，Ａさんの気持ちは分かるが，ＡさんがＢさんの気持ちを考えている場面を推測するのか苦手なんだ。」と自分の心の状態を推測したりすることができる。それが子供の心の理論を育てることとなる。

９　おわりに

近年，自閉症児の心の理論研究が進んでおり，自閉症児の心の理論は，定型発達児とは質的に異なるものであることが明らかとなってきている。その独特な獲得の仕方を踏まえつつ，教師には，長期に渡る計画的で丁寧な指導が求められる。

－引用・参考文献－

○ 別府哲『心の理論の非定型発達』，子安増生・郷式徹編著『心の理論－第2世代の研究へ－』第13章，平成28年，新曜社

○ 藤野博『アニメーション版心の理論課題ver. 2』，平成17年，DIK出版

○ 岩波明『発達障害』，平成29年，文藝春秋

○ 子安増生著『いまなぜ「心の理論」を学ぶのか』，子安増生編著『「心の理論」から学ぶ発達の基礎－教育・保育・自閉症理解への道－』Ⅰ－1，平成28年，ミネルヴァ書房

○ 岡本依子・菅野幸恵・塚田－城みちる『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学－関係のなかでそだつ子どもたち－』平成16年，新曜社

（特別支援教育研修課　本田　和也）